

第九節 海軍関係

二九八 明治廿年六月三日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

機械水雷使用ニ關スル英國提案並ニ右ニ対スル

蘭伊及我邦ノ修正案報告ノ件

六月三十日 前一一、四〇 海牙発
七月一日 前一八、三五 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第二八号

往電第一四号前段

一、海軍力ヲ以テスル都市砲撃ニ關スル米委員ノ提案へ別

電第一九号ニテ電報ス

露國委員ハ之レニ対シ陸戰法規慣例條約第二七條ト同一

ノ條項ノ追加ヲ提議セリ

二、英委員ノ出セル機械水雷使用ニ關スル提案左ノ通リ

繫維ナキモノ及び繫維ヲ離レタルトキ無効トナラザルモノハ禁ズ

通商上ノ封鎖ニハ禁ズ

尙ホ蘭國委員ハ中立國カ中立ヲ守ルタメ自國領海ニ敷設スルヲ得ルトノ條項ト一切ノ場合ニ於テ二ノ公海ヲ聯絡スル海峡ハ水雷ヲ以テ閉塞スルコトヲ得ズトノ提議ヲ為セリ

三、赤十字條約適用ニ關スル獨逸提案電報第三〇号ニテ電報ス

二九九 明治廿年六月三日 在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

海軍力ヲ以テスル都市砲撃ニ關スル米國ノ提案

報告ノ件

六月三十日 前一一、四五 海牙発
七月一日 前一三、四〇 本省着

都筑大使

第二九号

(米國提出案)

築堡及防禦ノ設備ナキ市街、村落若クハ不動産ニ対シ海軍力ヲ以テ砲撃スルコトヲ禁ス但シ該市街、村落若ハ不動産

ハ陸海軍營造物、彈薬貯蔵所又ハ港内ニ在ル軍艦ノ擊破セラル、結果トシテ損害ヲ受クルコトアルヘシ又該市街、村

揭揚スヘキ一項ヲ加フ

其敷設範囲ハ兩交戦國ノ領海内ニ限ルヲ原則トスルモ防禦アル軍港前ハ敷設区域ヲ十マイルマテ拡張スルヲ得ルコト
ト
敷設ノコトハ中立者ニ告示シ且ツ其ノ告示ヲ知ラザル商船ノ危害ニ陥ラザル様手段ヲ取ルコト
又少クトモ一大船渠ヲ有シ軍艦造修ノ設備アリテ之レニ従事スル為メ政府支給ノ職工ヲ聘充スル港ノミ軍港ト同視スベキコト
機械水雷ノ構造ハ必要期間後其効果ヲ消失スルゴトクスルヲ望ムコト
戦爭終結後機械水雷敷設面ヲ相通知シ除去ニ務ムルコト
右提議中繫維ナキモノハ禁ズトノ項ニ対シ我レハ定期間後其効果ヲ失フモノハ此ノ限りニ在ラストノ修正案ヲ既ニ提出セリ、伊國委員モ我レト同様ノ趣意ヲ動議セリ唯ダ我レハ一定ノ期限後トセルヲ彼レハ一時間後トセリ

落若ハ不動産ハ海軍力ノ為メ現ニ必要ナル食料其他ノ供給ニ対スル相當ノ微差カ拒絕セラレタル場合ニ於テ砲撃セラル、コトアルベシ此場合ニ於テハ砲撃ノ豫告ヲ与フヘシ築堡及防禦ノ設備ナキ市街及場所ニ対シ贖金ヲ仕払ハサルノ故ヲ以テ砲撃スルコトヲ禁ズ

三〇〇 明治廿年六月三日 在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

赤十字條約適用ニ關スル獨國提案報告ノ件

六月三十日 後八、二五 海牙発
七月一日 後七、〇〇 東京着

都筑大使

第三〇号

(一) 第三條ノ病院船ニ対シテ其所屬中立國ヨリ官ノ命令ヲ受クルノ條件ヲ「豫メ該中立國ノ同意ヲ經且ツ交戦國一方ノ許可ヲ得テ該交戦國ノ使用ニ供セラル、モノトノ條件」ニ改ム

(二) 第五條ニ病院船ノ夜間ノ標識トシテ青白青ノ三燈火ヲ掲揚スヘキ一項ヲ加フ

(3) 第五條ノ四トシテ軍艦内ノ病室ハ戰闘中出来ベキ限り
之ヲ尊重スヘキコトヲ規定ス

(4) 第五條ノ五及六トシテ病院船及艦内ノ病室ハ敵ニ対ス
ル加害行為ノ用ニ供スル時ハ保護權ヲ失フモ病院船及病
室内ノ人員ガ武装スルコト自衛ノ為メ其武器ヲ使用スル
コト病院船ニ武装セル番兵ヲ置クコト病院船ガ海賊等ニ
対スル自衛ノ為メ小口銃砲ヲ備フルコト等ハ保護權ヲ失
フ理由トナラズトセリ

(5) 第六條ニ交戦国ハ中立國ノ商船等ニ対シテ其ノ監督ノ
下ニ傷病者ヲ收容介抱スルコトヲ要求スルヲ得ルコト及
ヒ交戦国一方ノ軍艦ハ右等船内ニ在ル傷病者難船者ノ引
渡ヲ請求スルヲ得ルコトヲ追加ス

(6) 第七條三項ヲ改メ自國海軍ノ同階級ノ人員ニ与フルト
同一ノ給与及俸給ヲ得セシムルコトトス

(7) 第九條中右最終ノ場合以下ヲ改メ俘虜カ中立港ニ送ラ
レタル時ハ中立國ハ相手方ノ同意ナクシテ戰爭終結迄之
ヲ抑留スルノ約束ヲ為ス可カラズ又俘虜カ拿捕國ノ港ニ
送ラレタル後更ニ其本國ニ送還セラレタル時ハ交戦中再
ヒ服役スルヲ得ズトス

(8) 旧第十條ヲ復活シ且ツ第十條ノ二及ヒ三トシテ交戦國
ノ

軍艦ヲ戰闘用軍艦ト補助用軍艦ノ二トス

一 戰闘用軍艦 公認セラレタル軍艦旗ヲ掲揚シ敵ヲ攻擊
スル為メ國費ヲ以テ武装セラレ且ツ其士官乗員カ所屬國
政府ヨリ正当ニ任命セラレタルモノ、本国港ヲ出發スル
前ニ於テスルノ外船舶ニ軍艦ノ性質ヲ附与スルコト及ヒ
其本国港ニ帰還シタル後ニ於テスルノ外其軍艦ノ性質ヲ
削除スルコトハ共ニ適法ナラズ

二 補助用軍艦 交戦国ニ屬スルト中立國ニ屬スルトヲ問
ハス海軍兵、兵器、彈薬、燃料、糧食、水其他一切ノ海
軍需品ノ輸送ニ使用セラル、モノ又ハ修理ヲ為スノ用ニ
供セラル、モノ並ニ交戦國艦隊ヨリ直接間接ニ発シタル
命令ニ從テ文書輸送若クハ情報伝達ノ用ニ供セラル、モ
ノ

陸軍軍隊ノ輸送ニ使用セラル、一切ノ船舶亦同ジ

第二回電報第二ノ二ニ關シ我ハ商船ヲ軍艦ニ變更スル場所
ヲ其本国港若クハ領海又ハ陸海軍ノ占領スル港若クハ領海
ト為サンコトヲ提議ス

ハ戰闘後軍事上ノ利益ノ許ス限り難船者傷病者ヲ收容ス
ケンナイアルコト權内ニ在ル？傷病者現況ヲ互ヒニ通報スルコト及
ヒ死者ノ遺物等ヲ本国關係者ニ送ル事等ヲ規定ス

(9) 第十一條ノ四トシテ記名國政府ハ私人ガ傷病者ニ対ス
ル掠奪等ノ行為及ヒ他ノ船舶カ病院船ノ標識濫用ヲ处罚
スル為メ必要ナル手段ヲ執ルベク軍刑法ガ？不十分ナ
ル時ハ其改正案ヲ議會ニ提出スルコトヲ約定スル事等ヲ
規定ス

三〇一 明治四十年七月一日 在海牙都筑大使(ヨリ
林外務大臣宛(電報))

軍艦ノ定義ニ閲スル英國提案及我邦修正案報告
ノ件

七月一日 前五一、〇七 海牙發

林外務大臣

都筑大使

第三一号

往電第十九号第一ノ四ニ閲シ第一英國委員ノ提出シタル軍
艦ノ定義左ノ通り

三〇一 明治四十年七月六日 在海牙都筑大使(ヨリ
林外務大臣宛(電報))

中立國領水内ニ於ケル交戦國軍艦ニ閲スル我邦
提案報告ノ件

七月六日 前一一、一五 海牙發

林外務大臣宛

都筑全權大使

第四二号

御訓令ノ趣旨ニ基キ中立領海ニ於ケル交戦國軍艦ノ件ニ閲
シ往電第四三号ノ議案ヲ提出シタリ英國ヨリモ本日頃往電
第四四号ノ議案ヲ提出スル趣ナリ
(來電第一六号不着)

(附
電)

中立國領水内ニ於ケル交戦國軍艦ニ閲スル我邦

提案

七月六日 前一一、三〇 海牙發

林外務大臣宛

都筑全權大使

第四三号

中立國ヲシテ重大且無益ナル責任ヲ免レシメ同時ニ國際慣
例ノ一致セサルニ基ク誤解ヲ防カムカ為日本帝國委員ハ中

立國領水ニ於テ交戦国軍艦ノ遵守スヘキ制度ヲ規定スルノ提案ヲ本委員会ノ議ニ附スルノ光榮ヲ有ス

一、交戦国軍艦ハ中立國ノ港又ハ領水ヲ偵察地又ハ集合地若クハ軍事行動ノ根拠地又ハ其ノ他一切軍事上ノ目的ニ供スル根拠地トシテ使用スルコトヲ得ス

二、交戦国軍艦ハ左記ノ場合ノ外二十四時間以上中立國ノ港又ハ領水ニ進入又ハ滞留スルコトヲ得ス

甲、前記軍艦カ海上ノ状態ニ由リ外海ニ出航スルコトヲ得ナル場合ニハ適法ナル滞留期間ハ海上ノ状態カ危險ナラサルニ至ルマテ延長セラルヘシ

乙、中立國ノ港又ハ領水ヨリ一方ノ交戦国商船又ハ軍艦カ出航スル時刻ト同一ノ港又ハ領水ヨリ他ノ一方ノ交

戦国軍艦ノ出航スル時刻トノ間隔ハ二十四時間以上又ハ以下ナルコトヲ得ス而シテ両交戦国艦船ノ孰レカ先ニ出航スヘキヤハ中立國之ヲ決定ス

三、同一ノ交戦国又ハ其同盟國ニ屬スル軍艦ハ同時ニ三隻以上中立國ノ同一港又ハ領水ニ碇泊スルコトヲ得ス

四、交戦国軍艦ハ中立國ノ港又ハ領水ニ於テ左ノ行為ヲナスコトヲ得ス

戰闘力ヲ増加スルコト

三〇三 明治四年七月六日 在海牙都筑大使(ヨリ)
林外務大臣宛(電報)

海戦ニ際シ中立國ノ権利義務ニ關スル英國ノ提
案報告ノ件

七月六日 後六、三〇 海牙発

林外務大臣宛

第四号

英國提案摘要

海戦ニ際シ中立國ノ権利義務ニ關スル條約

一、中立國ハ交戦国ヨリ戦争開始ノ通知ヲ受クルマテハ全
タ中立義務ヲ履行スルノ措置ヲ執ルコトヲ要セス

二、交戦国ハ中立國ノ主權ヲ尊重スルコトヲ要ス又中立國
ノ領土又ハ領水ニ於ケル交戦国ノ行為ニシテ若シ中立國
カ其情ヲ知リツ、之ヲ認許スル場合ニ於テ中立違反トナ
ルヘキモノハ交戦国ハ之ヲ為スコトヲ得ス

三、中立國ハ交戦国ニ対シ直接又ハ間接ニ軍艦、兵器、彈
薬、海軍用品若クハ国有財産ヲ共ニ売渡スコトヲ得ス
コトナカラシムカ為メ全力ヲ尽クシテ之ヲ防止スヘシ

修繕ヲナスコト、但シ航海ノ安全ニ對シ必要欠クヘカ
ラサルモノハ此ノ限ニ在ラス

一切ノ需品積入ヲ為スコト但シ石炭及食料ニ付テハ其
ノ艦内ニ残存スル分ト合セテ該艦ヲシテ經濟速力ヲ以
テ其ノ最近本国港又ハ一層接近セル中立港マテ進航セ
シムルニ要スル分量ハ此ノ限ニ在ラス

五、交戦国軍艦ニシテ戰場ニ向フモノ又ハ之ト同一ノ方向
又ハ現ニ敵抗行為ノ行ハル地域ノ方向ニ進航スルモノ並
ニ其ノ方向疑ハシク又ハ不明ナルモノハ中立國ノ港又ハ
領水ニ於テ修繕ヲ為シ若クハ石炭又ハ食料ノ積入ヲ為ス
コトヲ得ス

六、交戦国軍艦ニシテ前記規定ニ依リ許サレタル期限ヲ超
過シテ中立國ノ港又ハ領水ニ滞留シ又ハ同規定ニ依リ許
サレタル範囲外ノ需品積入ヲ為シ又ハ其ノ他如何ナル方
法ヲ以テスルヲ問ハス同規定ニ依ル制限ヲ侵犯スルトキ
ハ該港又ハ領水所屬ノ中立國ニ於テ其ノ武装ヲ解除シ且
戦争ノ終局マテ之ヲ抑留スヘシ

七、中立國ハ前記諸規定ノ適用ヲ確保センカ為必要ナル
一切ノ措置ヲ取ルコトヲ要ス

十、交戦国ハ交戦軍ト通信スルノ目的ヲ以テ中立領土ニ又
ノ根拠地トシテ使用スルコトニ対シ及フ限り之ヲ防止ス
ヘシ

艦カ其艦隊ニ附屬スル艦船ヨリ供給ヲ受ケタル時ハ中立國ノ領土又ハ領水ヲ軍事行動ノ根拠地トシテ使用スルモノト看做ス

十一、中立國ハ戦争開始ノ際中立國ノ港又ハ領水内ニアリ

ト認ムルノ理由アル交戰國軍艦ニ対シ二十四時間ニ退去ヲ要求スルノ通告ヲ与フルコトヲ要ス

十二、中立國ハ交戰國軍艦カ別ニ規定アル場合ノ外二十四時間以上中立國ノ港又ハ領水内ニアリコトニ対シ其情ヲ知リツ、之ヲ認許スルコトヲ得ス

十三、兩交戰國ノ軍艦又ハ商船カ同時ニ中立國ノ同一港内又ハ同一碇泊所ニ在ル場合ニ於テ中立國ハ一方ノ交戰國軍艦カ他ノ一方ノ交戰國軍艦又ハ商船ノ出港後二十四時間以内ニ退去スルコトヲ認許スヘカラス

十四、交戰國軍艦カ中立港又ハ領水ヲ退去スヘキコトヲ命セラレタルモ之レニ服従セサル時ハ天候險惡ノ場合ノ外中立國ハ戦争終了ニ至ルマテ該交戰國軍艦ヲ抑留スルコトヲ要ス

十五、交戰國軍艦カ敵ノ追撃ヲ免レムカ為メ中立領水ニ避難スルトキハ中立國ハ戦争終了ニ至ル迄之ヲ抑留スルコトヲ要ス

十六、中立國ハ其管轄内ニ於テ交戰國軍艦カ敵ニ向テ進航シ又ハ軍事行動ヲ為スノ準備ヲ整ヘンカ為メ需品燃料又ハ供給ヲ積入ル、事ニ對シ其情ヲ知リツ、之ヲ認許スルコトヲ得ス

十七、交戰國軍艦カ其艦内ニ現存スル需品燃料及供給ノミニテハ最近自國港迄進行スルニ不十分ナル場合ノ外中立國ハ其管轄内ニ於テ該交戰國軍艦カ何等需品又ハ燃料ヲ積入ル、コトニ對シ其情ヲ知リツ、之ヲ認許スルコトヲ得ス而シテ如何ナル場合ニ於テモ中立國ノ管轄内ニ於テ積入ル、需品燃料又ハ供給ハ艦内ニ現存スル分ト合シテ該艦カ最近自國港迄進航スルニ要スル分量ヲ超過スルコトヲ得ス

十八、交戰國軍艦カ最近三ヶ月以内ニ中立國ノ領水内ニ於テ石炭積入ヲ為シタル事アルトキヘ該中立國ハ同艦カ其管轄内ニ於テ石炭積入ヲ為スコトニ對シ其ノ情ヲ知リテ之ヲ認許スルコトヲ得ス

十九、交戰國軍艦カ敵ト交戰ノ結果受ケタル損所ヲ中立國ノ管轄内ニ於テ修繕シ又ハ如何ナル場合ニ於テモ航海ニ適スルニ必要ナル程度以上ノ修繕ヲ為スハ中立國ニ於テ其情ヲ知リツ、之ヲ認許スルコトヲ得ス

二十、難船者又ハ傷病者タル海軍兵員ニシテ地方官憲ノ同意ヲ得テ中立港ニ上陸シタルモノハ該中立國ト両交戰國トノ間ニ反対ノ取極メナキ限リ戦争ノ終了スル迄同中立國ニ於テ之ヲ抑留スルコトヲ要ス

二十一、中立國ハ其抑留スル交戰國軍艦ヲシテ戦争継続中出航スルコト能ハサランカ為メ其ノ機関又ハ武装ノ要部ヲ除去シ又ハ其他適當ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得

二十二、交戰國艦船ニシテ中立國ノ為メニ抑留セラル、トキハ其士官及乗組員モ亦其ニ抑留セラルベシ但シ他ノ一方ノ交戰國カ其ノ帰国ニ同意セルトキハ此限りニ在ラス

二十三、交戰國艦船ノ士官及乗組員ニシテ中立國ノ為ニ抑留セラル、時ハ中立國ハ之ヲ陸上又ハ艦内ニ留置シ且之ニ必要ナル制限ヲ加フルコトヲ得

二十四、艦船士官及乗組員ノ抑留帰國又ハ給養ニ關シ中立國ノ負担シタル費額ハ其ノ所屬交戰國ヨリ之ヲ弁償スベシ

二十五、交戰國捕獲審査所ハ中立國ノ領土ニ於テ若クハ中立國領水ニ在ル船内ニ於テ之ヲ開設スルコトヲ得ス

三十九、中立國領水ニ送致セラレタル拿捕船シテ出航ノ

命令ニ服従セサル時ヘ天候險惡ニ依リ遲延スル場合ノ外
中立國ハ同船ヲ其士官及乗組員ト共ニ解放シ捕獲隊員ハ
之ヲ抑留スヘン

四十、中立國ハ自ラ適當ト認ムルトキヘ如何ナル場合ニ於
テ其ノ港及ビ領水ノ全部又ハ一部ヲ交戦國ニ屬スル軍
艦、拿捕船、特務船又ハ特種ノ艦船ニ対シ戦争ノ全期間
又ハ一定ノ期間閉鎖スルノ権利ヲ有ス

四十一、中立國ハ其臣民カ交戦國ノ設定シタル封鎖ヲ破リ
又ハ該中立國領土ヨリ戦時禁制品ヲ輸出スルコトヲ防止
スルノ義務ヲ有セス但シ該所為ヲ輔助スルヲ得ベ

四十二、交戦國ノ軍艦又ハ其艦隊ニ附屬スル艦船カ戦時ニ
於テ中立國領水ヲ無害ニ通過スルハ前記各條ノ禁スル限
ナトヲバ

三〇四 明治四年七月七日 西國駐劄稻垣公使ヨリ

中立國港湾ニ於ケル戰鬪國ノ船艦ニ關シ西國政
府提案ノ件

附屬書 右西國提案

ルモノ、如ク相見ヘ申候然シテ自然露仮西三國ノ委員ハ我
國ノ提出案ニ反対スルノ状況ヲ将来ニ於テ相見ルヤモ難計
右御参考迄ニ及報告候 敬具

明治四十年七月七日

在西 特命全權公使 稲垣満次郎(臣)
外務大臣子爵 林 董殿

(附屬書)

中立國港湾ニ於ケル軍艦ニ關シ西國提案

Légation Imperiale
du Japon
Madrid

The Spanish delegate Senor Villauritria presented
the following propositions relative to Neutrals.—

Art. 1. It shall not be permitted to the belligerant
warships to enter or take up their station in neutral
ports and waters, using them as bases of warlike
operations of whatever kind (or nature).

Art. 2. The entrance and stay in neutral ports and
waters shall be forbidden to ships conducting prizes,
except in the case of putting in by reason of stress
of weather (force majeure).

機第一三三号 八月十九日接受

日露戰役中波羅的艦隊ガ當國ダキヤ一港ニ寄港シ每艦四百
噸ノ石炭ヲ積入レ候件ニ就テハ中立ノ義務ヲ果タサザルモ
ノトシテ其當時我政府ヨリ西國政府ニ對シ其ノ説明ヲ請求
シ且ツ之ニ抗議ヲ申込ミ兩國間ノ交渉問題ト相成リ西國政
府ハ最近ノ港湾迄航行シ得ル石炭ノ積入ヲ許シタルモノ
シテ臺モ戰鬪力増加ノ嫌アラスト主張シ居候处今回當國ノ
委員ハ中立國ノ港湾ニ於ケル戰鬪國ノ軍艦ニ關シ別紙五ヶ
條ヲ平和會議ニ提出致候之ヲ閱讀致候ニ日露戰爭中日西兩
國間ノ交渉問題ト相成リ而シテ其當時西國政府カ主張シ
タル点々ヲ個條書キニ致シタルモノニシテ其ノ目的ハ西國
政府ノ日露戰爭當時ノ行為ハ決シテ中立國ノ義務ニ背キタ
ルモノニ非ラサル事ヲ明カニセントスルモノト被存候又
タイムス新聞ノ所報ニ依レハ我委員モ六月三日ヲ以テ中立
國ノ港湾ニ於ケル軍艦ニ關シ一議案ヲ提出致シ其目的ハ戰
場ニ向フ船艦ノ食物及石炭積込ヲ禁セントスルニアリト而
シテ英國委員ハ之ヲ贊成シ露國及仏國ノ委員ハ恐ラクハ之
ニ反対スルナラント有之候左スレバ當國ノ提出案ニハ最近
ノ港ニ達スル迄ノ食物及石炭ノ積入レハ禁制セザルモノニ
有之候ヘバ我國委員ノ提出案ト當國ノ提出案トハ相容レサ

Art. 3. The belligerant ships shall be permitted to remain no more than 24 hours in neutral ports and waters except in case of avery, bad condition of the sea, or other cause of force majeure.

Art. 4. In cases of forced stay said ships must abandon the neutral ports and waters as soon as they have repaired their averies or the circumstances of force majeure, cause of their putting in, have ceased.

Art. 5. The belligerant ships shall not be allowed during their stay in the ports to load war material or any provisions capable of increasing their military force.

They may in any case provide themselves with victuals and with the coal necessary to enable them to arrive to the port nearest to their own countries or to the neutral port that may be nearest.

The belligerant vessel that may have taken in provision in a neutral port shall not be allowed to do so in any other port of said neutral nation except after a lapse of three months.

三〇五 明治四年七月十七日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

第三委員会ニ於テ病院船ニ関スル條約案起草ノ

件

七月十七日 後四、四三 海牙發 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第六五号

病院船ニ關スル條約ニ就テハ墨国提案ヲ基礎トシ他國ノ提案及意見ヲ斟酌シ編纂委員会ヲシテ條文ヲ起案セシメタリ該會ハ第三委員會議長タル伊国委員ヲ議長トシ独塙英仏伊

日嶋村蘭露白耳義支那瑞西ノ委員ヲ以テ組織セリ編纂委員会ノ成案ハ十六日第三委員會總会ニテ小改正ヲ加ヘタル上

一応土耳古及波斯ハ赤十字旗ノ代リニ特別ノ徽章ヲ使用スルコト等ヲ留保シ各國ハ之ヲ承諾セリ本案ハ多分之ノ儘総會ヲ通過スルナラン條約案要領ハ六十七号ニテ電報スヘシ

三〇六 明治四年七月十七日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)
第四委員会ニ於テ海上私有財產不可侵ニ關スル
米國ノ提案議決ノ件

三〇七 明治四年七月十八日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)
ジエネバ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約案報告ノ件

七月十九日 後五、〇五 東海牙發

林外務大臣宛

都筑大使

第六七号

一九〇六年七月六日ノジエネバ條約ノ原則ヲ海戰ニ適用ス

ニヨルヘキモ傷病者ノ為メ必要ナル間ハ用途ヲ變更スルヲ得サル事然レトモ軍事上重大ナル必要アルトキハ室内ニアル傷病者ノ生命ヲ保安シタル上使用スルコト

第八條 病院船及船内病室ハ敵ニ対スル加害行為ニ供スルトキハ保護權ヲ失フモ其人員カ秩序維持又ハ保護ノ為武裝スルコト及航内ニ無線電信機ヲ備フルコトハ保護權ヲ失フノ理由トナラサルコト本條無線電信ニ關シテハ日本、英國、伊國等八カ國ノ非決説アリシモ多數ニテ成立ス

第九條 交戰者ハ中立國ノ商船等ニ傷病者ノ收容介抱ヲ依頼スルヲ得ルコト右依頼ニ應シ又ハ自ラ之ヲ收容セルモノハ特別ノ保護ヲ受クベクコノ船舶ハ單ニ右輸送ノ事實ノ為メニ捕獲セラル、コトナキモ其中立違犯ノ行為アリタルトキハコノ約束ニ關セズ捕獲セラルヘキ事(旧第六條ノ修正)

第十條 第一項第二項ハ旧第七條第一項第二項ニ同ジ第三項ヲ修正シテ自國海軍ノ同階級ノ人員ト同一ノ給養及俸給ヲ得セシムルコトス

第十一條 官船内ニアル海陸軍人及官命ニヨリ海陸軍ニ附屬セシメラレタル其他ノ人員ニシテ傷病セルモノハ總ヘテ

ヘキ限り之ヲ尊重庇護スペシ右病室及材料ハ戰時法ノ規定ス該案ニ規定スル船舶ノ保護又ハ標識以外ノ目的ノ為メニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條 軍艦内ニ於テ戰闘起レル場合ニハソノ病室ハ出来ヘキ限り之ヲ尊重庇護スペシ右病室及材料ハ戰時法ノ規定

第十二條 交戦国軍艦ハ病院船及中立国商船等ニアル傷病者難船者ノ引渡シヲ要求スルヲ得ルコト英國ハ本案ニ対シテ留保セリ

第十三條 中立国軍艦ニ於テ傷病者難船者ヲ収容セルトキハ再ヒ戦闘ニ從事セシメサルノ手段ヲ取ルコト

第十四條 旧第九條ト同シ

第十五條 旧第十條ノ復活

第十六條 各戦闘後交戦者双方ハ軍事上ノ利益ノ許ス限り傷病者等ヲ捜索スル為メ且ツ之等ノモノ及死者ヲシテ（二字不明）ヲ受ケシメサル為メノ手段ヲ取ルヘキ事交戦者ハ死者ヲ葬ム前屍体ノ検索ヲナスニ注意スル事

第十七條 交戦者ハ死者ヲ認知スルニ足ルヘキ軍事上ノ記号ヲ書類及收容セル傷病者ノ名簿ヲ速カニ自國官憲ニ送致スルコト交戦者ハ其權内ニアル傷病者ノ抑留異動入院死亡ニ關スル現況ヲ之ニ通報スヘク又捕獲艦船内ニテ発見シ若クハ病院ニテ死亡セル傷病者ノ遺留セル自用品等ヲ本国關係者ニ伝送スルコト

第十八條 旧第十一條ニ同ジ

第十九條 軍隊ヲ艦隊ニ改メタル外一九〇六年赤十字改正條約第廿五條ニ同ジ

七月二十三日 前九、一〇 本省着

林 大 臣
第七六号
都筑大使
往電第六七号ヲ以テ報告シ置キタル病院船ニ関スル新條約案ハ昨日ノ全委員会ニ於テ満場一致ヲ以テ可決セラル尤モ英國ハ其ノ第六條第十二條及第二十一條ニ關シ又土耳其及波斯国ハ赤十字徽章ノ使用ニ關シ保留ヲナシタリ

八月一日 後二、二五 海牙發
林外務大臣（ヨリ）
病院船ニ関スル條約第二十一條ニ対スル日英兩國委員ノ態度問合セノ件

八月一日 後三、四〇 發

都筑大使宛
林 外 相
第二四号
三〇九 明治四年八月一日 在海外務大臣（ヨリ）
病院船ニ関スル條約第二十一條ニ対スル日英兩國委員ノ態度問合セノ件

貴電第七六号ニ關シ病院船ニ關スル新條約案第一二條ニ對シ貴官並ニ英國委員ハ何等留保ヲ為サレサリシヤ折返シ返電アリタシ

第廿一條 赤十字改正條約第廿八條ト同ジ但シ其軍刑法ナル文句ヲ單ニ刑法トシ第一項ノ終リヲ本條約ニヨリ保護セラレサル船舶カ第五條ニ定メタル色別記号中濫用云々又第

二項瑞西政府ヲ蘭國政府ニ改ム

第廿二條 本條約ハ艦船内ニアル軍隊ニ限リ適用セラルベキコト

第廿三條 旧第十二條ト同ジ

第廿四條 條約日附ヲ一九〇六年ニ改メタル外旧第十三條ト同ジ

第廿五條 條約日附ヲ一八九九年ニ改メタル外赤十字改正條約第卅一条ト同ジ

第廿六條 旧第十四條ト同ジ

三〇八 明治四年七月二二日 在海外務大臣（ヨリ）
林外務大臣宛（電報）
第二委員会ニ於テ海底電線ニ關スル丁抹國ノ陸戰ノ法規追加案通過ノ旨報告ノ件

八月一日 前一〇、二〇 本省着

林外務大臣宛
都筑大使
第八一号
昨三十一日第二委員会ニ於テ電報六八号ノ丁抹提案ヲ討議シ各國共同案ニ賛成セリ右ハ陸戰ノミニ關スルモノニ付帝國政府ニ於テモ御異存無キ事ト認ム

註 前掲二七八文書參看

八月一日 前一〇、四〇 海牙發
林外務大臣（ヨリ）
病院船ニ關スル條約第二十一條ニ対スル日英兩國委員ノ態度ニ關シ回申ノ件

八月一日 後一〇、四〇 本省着

第三六七

第八二号

貴電第二四号ニ閲シ英國委員ガ第二十一條ニ付留保ヲナシタルハ電報七六ニテ報告セリ本官ハ御訓令第八号ニ基キ別ニ何等留保ヲナサズ

註 訓令第八号ハ後電都筑大使ノ説明ニヨレバ

第八項ニシテ一七四文書附屬書一訓令ノ第
八番目ニ当ル項目ナリ

條約第廿一條ヲ留保セサルハ前後矛盾ノ嫌アリ右ニ閲シ貴見電報アリタシ

註 来電八一、八二号ハ前掲三一〇、三一一文書ナリ

三一三 明治四年八月七日 在海牙都筑大使(ヨリ)宛(電報)

八月七日 前一〇、三五 海牙着

林外務大臣

前件回申ノ件

三一四 明治四年八月八日 在海牙都筑大使(ヨリ)宛(電報)

八月八日 前一七、〇五 海牙着

都筑大使

林外務大臣

第八四号

貴電第二七号ニ閲シ

一、陸戰ノミニ閲スルトハ該規程ガ陸戰法規ノ追加ニシテ
陸戰力ヲ以テ陸上又ハ海岸附近ニ於テ海底電線若クハ其
陸上設備ヲ押収破壊スル場合ノミニ適用シ大海ニ於テ海
軍力ヲ使用スル場合ニ適用セズトノ意ナリ
ヤ
同第八二号ニ閲シ訓令第八号トハ何ナルヤ帝国政府ハ曩ニ
赤十字改正條約第廿八條ヲ留保セルニ今回病院船ニ閲スル

國ガ病院船條約第二十一條ヲ留保シタルハ從來同國ニ於
テ赤十字ノ記号ヲ使用スルモノ多キ為メ之ガ使用ヲ禁止

スルノ困難ヲ顧慮シタルニアルモノハ如キヲ以テ我普通
船舶カ同記号ヲ使用セル實例ナキニ拘ラズ又我ニ比シ該
記号ヲ使用スルコト多キ諸國カ悉ク無條件ニテ同條ニ賛
成スルニ拘ラズ我ニ於テ独リ英國同様ノ留保ヲナスハ
之ガ理由ヲ説明スルニ苦ム事情アリ殊ニ陸上ニ於テハ我
商船中該記号ヲ使用スルモノアルヲ主張シ得ベキモ我船
舶カ赤十字記号ヲ使用スルモノナキハ明瞭ナル事實ニシ
テ論争ノ余地ナキヲ以テ熟慮ノ上留保ヲナサルヲ適當
ト認メ御訓令第八項ニ定メタル一般原則ニ基キ無條件ニ
テ同條約ニ賛成シタル次第ナリ右御承知アリタシ

三一四 明治四年八月八日 在海牙都筑大使(ヨリ)
林外務大臣宛(電報)
海底電線ニ閲スル海戰法規改正案ニ對スル帝國
ノ態度豫メ請訓ノ件並ニ次回平和會議会期問題
ノ件

八月八日 後〇、五〇 海牙發
八月九日 前七、四〇 本省着

第六章 會議ノ進行、海軍関係 三一四 三一五

電報第八五号ニ閲シ英國委員ヨリ聞ク処ニ依レハ露國委員
カ次回平和會議ノ開会ヲ決定スルハ之ノ平和會議ノ權限外
ナリトノ說ヲ固持スルタメ英國委員ヨリ目下英國政府へ掛
合中ナリト謂フ

三一五 明治四年八月八日 在海牙都筑大使(ヨリ)
林外務大臣宛(電報)
第三委員会ニ於テ海軍力ヲ以テ都市砲擊ニ閲ス
ル議案討議狀況報告ノ件(一)(二)

三六九

八月八日 後八、四五 海牙発
八月九日 後八、四〇 本省着

林外務大臣宛

(一)

第八九号

本日第三委員会總会ニ於テ海軍力ヲ以テ都市等ヲ砲撃スルコトニ關スル規定ヲ議事セリ其ノ成案要領左ノ如シ

第一章 防守セザル村落等ノ砲撃

第一條 防守セザル港湾市邑村落家屋又ハ船舶ハ海軍力ヲ以テ之レヲ砲撃スルヲ禁ス該地方ハ其ノ前面ニ触發自動

水雷ヲ沈置セルノ事實ノミヲ以テ之レヲ砲撃スルヲ得ス

第二條 然レトモ軍事工作物陸海軍建設物兵器若クハ需品ノ集積(射的)ノ艦隊若クハ軍隊用ニ供セラル、工場及

ツジ並ニ港内ニアル軍艦ハ前條ノ禁止中ニ包含セス海軍指揮官ノ相當ノ期間ヲ附シテ要求シタル後他ニ取ルヘキ手段モナク又地方官憲ニ於テ該所定ノ期間内ニ之レヲ破壊スルノ手段ヲ取ラサルトキハ砲撃ニヨリ之レ等ノ物ヲ破壊スルヲ得軍事上緊急ノ必要アリテ急速ニ行動スルヲ要シ期間ヲ与フルコトヲ得サルトキト雖モ防守ナキ都市ヲ砲撃スル(メザハ)前條ノ場合ト同一ナルベク又海軍

指揮官ハ右都市ニ対シテ出来得ベキ丈不便ヲ与ヘザル為
メ相当ノ所置ヲ取ルベシ右ノ場合ニ於テ砲撃ノ為メニ生
スルコトアルヘキ故意ニ出テザル損害ニ対シテハ海軍指
揮官ハ何等ノ責ヲ負ハス

第三條 防守セザル港湾市邑村落家屋船舶ニシテ當該地方官憲ニ於テ公式ノ請求ヲ受ケナガラ該地點ニアル海軍力

ガ當時要スル必要ナル糧食ハ需品ノ徵發ニモ慮セザル場合ニ於テハ明白ナル通告ヲナシタル後之ヲ砲撃スルヲ得

右徵發ノ範囲及徵發ヲ行フベキ條件ニ就テハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第五十二條ノ趣意ヲ準用ス
第四條 金錢上ノ取立金ヲ支払ハサルヲ理由トシテ防守セザル港湾市邑村落家屋又ハ船舶ヲ砲撃スルコトヲ得ズ

第二章 一般規定

第五條 海軍力ヲ以テ砲撃スルニ當リテハ指揮官ハ歴史的記念物宗教技芸學術及慈善ノ為メニ設ケラレタル建設物並病院病傷者ノ收容所ニシテ同時ニ軍事上目的ニ供セラレサルモノニ對シテハ出來得ベキ丈之レニ害ヲ加ヘサル為メ一切ノ必要ナル手段ヲ施スベシ住民ハ木製又ハ帆布張タル四角形ノ大板ニシテ其ノ対角線ヲ区劃シ上半部ハ黒色下半部ハ白色ニ塗リ又見易キ形象ヲ以テ之レ等ノ記

三一六 明治四十年八月九日 在海牙都筑大使(ヨリ) 林外務大臣宛(電報)

海上ニ於ケル私有財產不可侵ノ件ニ關シ其後七月十九日ノ會議ニテ中間案タルプラジル國案ヲ票決ニ附セルニ米英仏ギー案ノ討議ニ移リタルニ其一條ノ票決ニ於テ米英日露西班牙ノ反対アリシ為メ又自ラ其案ヲ撤回スルコト、ナレリ又八月七日仏國案タル希望表彰ノ件ヲ票決ニ附シタルニ其前段即チ拿捕軍艦ノ乗員ニ拿捕物ノ一部ヲ分与スルコトヲ廢スル件ニ就テハ贊成國独墺伊日露等十六ヶ國反対國米以下四国アブステインセルモノ英西班牙等十四国ニテ又其後段拿捕ノ結果損害ヲ受ケタル個人ニ國家ヨリ幾分ノ補償ヲ与フル云々ノ件ニ就テハ贊成國墺伊日露等七国反対國米伊日等十三国アブステインセルモノ西班牙葡萄牙等十四

念物等ヲ表示スルノ義務アリ

第六條 攻擊海軍指揮官ハ軍事ノ必要上止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外砲撃ヲ行フ前之レヲ當該官憲ニ豫告スル為自己ノ權内ニ屬スル一切ノ手段ヲ尽クスベシ

第七條 急襲ヲ以テ攻メ落シタル市邑又ハ地域ト雖トモ掠奪ヲ行フヲ得ズ

(二)

八月八日 後七、四五 海牙発
八月九日 後一、〇八 本省着

都筑大使

第九〇号

往電第八九号ニ關シ第一條二項即チ「該地方ハ」以下ニ對シテハ贊成國ハ左ノ通り

墺伊其他ノ小国併セ十九国

反対國ハ日英西班牙等五國ニシテ

獨米仏露等十一國ハ「アブステイン」セリ右「アブステイン」シタル諸國ノ態度未タ明カナラス若シ本會議ニテ右ノ項ヲ存シタル議案提出セラレタル場合ニハ本官ハ右ノ項ヲ留保シテ該規定ニ賛成セントス

三一七 明治四年八月十三日 在海外務大臣ヨリ
在海牙都筑大使宛（電報）

海底電線ニ關スル海戦法規改正案ニ対スル帝国

ノ態度回訓ノ件

八月十三日後一、一五癸

都筑大使
林外務大臣

貴電第八七号前段ニ關シ主ナル諸国悉ク賛成スルニ於テハ

貴官同意セテイ差支ナシ

三、日清三、三

中立國領水内二於ケル軍艦二關スル村議大況報
林外翁文目錄（電報）

告ノ件

八月十六日 後九、五〇 東京着

第九六号

中立國領海ニ於ケル交戦國軍艦ノ權ニ闇シテハ各國ハ日英

國トノ二団ニ分レ目下小委員会ニ於テ論争中ナリ仏国自身

戦ノ事実ヲ知ラスシテ敵港ニ入りタル船舶ニ対シテモ亦

第二條 Fukakoromo 不可抗力ノ事情ノ為メ前記ノ期間内ニ敵港ヲ出港

スル不得サル商船又ハ出港ヲ許サレ不若クハ出港期間未
シテノトノ間合ハノラ斐又ハノロハノ得ム然ニハ三石

商船ハ出来得ヘクンハ戦争後之ヲ放還シ且ツ為メニ受ケ

タル一切ノ損害ヲ所有者ニ賠償スルノ義務ヲ以テ微発セ
テレヘン

第三條 敵國商船ニシテ戦争開始前ニ其ノ最後ノ発航港ヲ

出帆シ者々交戦ノ事無テ知テサル間ニ海上ニテ軍艦ニ遭遇ノタレモノ、没又ニラレ、コトナレ右商船ハ仰留ニテ

ルヘク又必要アルトキハ前ニ掲ゲタルトコロニヨリ徵發

セラルヘシ尙右商船ノ賄儀ヲ仕持ノハ上礪場セラルヘシ
石船由ニノテ一旦其本国港又ハ中立港ニ帰港シタレ後ハ

海戦法規慣例ニヨリ処分セラルヘシ

第四回 前説の船舶は、一ノ商貿の貿易物語であるが、

第五條 本條約ノ規定ハ豫メ軍艦ニ麥更スルコトヲ定メラ

レタル敵国商船ニ対シテハ之ヲ適用セス

第六章 會議ノ進行、海軍関係 三二〇

三七三

III-1 明治四年八月七日 在海牙都筑大使（ヨリ）
林外務大臣宛（電報）

第二回萬国平和會議ニ於ケル英米及大陸兩學派ノ勢力並ニ英國委員海上法會議開催希望情報ノ件

件

八月十七日 海牙發
八月十八日 本省着

林外務大臣

都筑大使

第一〇二号

先日來委員会々議ノ模様ヲ見ルニ仏學派ノ大陸諸國ノ説往々多數ヲ占ムルカ為メ英日ノ如キ海國ハ其利害ヲ充分ニ顧ミラレサルノ傾キアリ隨テ新設國際審檢所ニ於テモ英米說必ス常ニ少數ニ陥ルノ虞レアルハ明ナリ

英國委員ハ此頃初メテ之ヲ覺リタルモノハ如ク先日來種々談話ノ模様ニ依レハ帰國後早々政府ニ上申シテ直ニ海國諸大国ヲ招キテ海上法編纂ノ會議ヲ開設セントスルノ議ヲ熱心ニ主張セントスル趣ナリ若シ英國政府ヨリ右ノ如キ案内アラハ我國ニ於テモ之ニ同意アラレンコトヲ希望ス又我ヨリ進テ主張サレテモ右ノ計画實行サレンコトヲ熱望ス右御参考マデ

八月廿八日 後六、三五 東京着

林外務大臣宛

都筑大使

第一一〇号

昨年調印ノ赤十字條約文ニハ第四條第一項及第二項中ニ autorités de leurs pays ヲ「本国官憲」ト第二項 se tiendront ヲ「知悉スヘク」ト訳セラレ居る趣ノ處今回ノ病院船條約中ニ同様ノ規定アルニ付念ノ為メ「ルイル」ニ聞タルニ autorités 云々ハ第一項ニテハ病傷者等所屬官憲又第二項ニ於テハ利害關係者所屬官憲ノ意義ニモ又 se tiendront ハ通知スベシトノ意義ナリトノ事ナリ就テハ若シ右訳文確定前ナラハ右ノ意義ニ訂正相成テ如何カト思考ス参考マデ

III-3 明治四年九月十九日 在海牙都筑大使（ヨリ）
林外務大臣宛（電報）

第二回平和會議々定海軍関係議案要領報告ノ件

九月十九日 後一、二〇五 海牙發
九月十九日 後一、二〇 東京着

林外務大臣

都筑大使

第一三二号

議案要領

(第一) 觸発自動水雷沈置ニ關スル規定案

第一條 左ノ件ハ之ヲ禁ス

一、機能ヲ制スル能ハサルニ至ルトキヨリ一時間以内ニ

無害ト為ラサル繫維ナキ触発自動水雷ノ使用

二、繫維ヲ離レタルトキニ無害ト為ラサル繫維触発自動

水雷ノ使用

三、命中セサルトキ無害ト為ラサル魚形水雷ノ使用

第一條 繫維触発水雷ハ自國沿岸又ハ嶋嶼ヨリ三海里以外ニ使用スルヲ得ス湾ニ付テハ該三海里ノ範囲ハ其入口十海里ノ点ニ引キタル直線ヨリ起算ス

第三條 軍港及兵器廠造船廠又ハ船渠ノ設備アル港ノ前ニ八十海里マテ繫維触発自動水雷ヲ敷設スルヲ得軍港トハ國家ニ於テ軍港ト布告セルモノヲ云フ

第四條 交戦者ハ前二條ノ範囲内ニ於テ敵國沿岸又ハ港ノ前ニ繫維触発水雷ヲ敷設スルヲ得但シ國家ニ屬スル造船

第六章 會議ノ進行、海軍関係 III-111

三七五

III-2 明治四年八月三七日 在海牙都筑大使（ヨリ）
林外務大臣宛（電報）

赤十字條約文中ノ訳文意義訂正ノ件

八月廿八日 後六、三五 東京着

林外務大臣宛

都筑大使

廠又ハ船渠ノ設備アル軍港ノ前ニアラサレハ三海里以外ニハ之ヲ敷設スルヲ得ス商業上ノ航海ヲ阻害スル目的ノミヲ以テ敵國沿岸及港ノ前ニ触発水雷ヲ沈置スルヲ禁ス

第五條 直接交戦区域内ニハ交戦者ハ第二條乃至第四條ノ範囲外ニモ触発水雷ヲ沈置スル權アリ第二條乃至第四條ノ範囲外ニ使用セル水雷ハ之ヲ放置シタル後二時間内ニ無害ト為ルヘキ構造ヲ施スヲ要ス

第六條 繫維触発水雷ヲ使用セルトキハ航海ノ安全ノ為メニ出来得ヘキ豫防手段ヲ執ルヘシ交戦者ハ右水雷カ監視(surveille) セラレサルニ至リタルトキハ可成速ニ外交手段ニ依リ該危險範囲ヲ各國ニ通知スヘク且出来得ヘキ丈右水雷ハ一定期間経過後ニハ無害トナル様製スルコトヲ約ス

第七條 中立國ニシテ其沿岸ニ触発自動水雷ヲ沈置スルトキハ交戦國ト同一ノ規則ヲ遵守シ且同一ノ豫防手段ヲ執ルヘシ但シ中立國ハ第二條ノ範囲外ニハ水雷ヲ沈置スルヲ得ス中立國ハ触発水雷ヲ沈置セル範囲ヲ豫メ航海業者ニ告知スヘク右告知ハ至急之ヲ各國政府ニ通知スヘン

第八條 遅クトモ戦争終結後ニハ記名國ハ其沈置セル水雷

ヲ引揚ル為メ一切ノ手段ヲ尽スヘシ交戦者カ敵國沿岸ニ
沈置セル繫維触発水雷ニ付テハ記名國ハ對手國ニ其區域
ヲ通知スルコトヲ約ス而シテ各國ハ可成速ニ其海面ニア
ル水雷ノ引揚ケニ努ムベシ

第九條 記名國ニシテ本條約ニ定メタル完成セル（perfect-ioner）水雷ヲ有セス隨テ第一條及第六條ノ規定ヲ履行スルヲ得サルモノハ可成速ニ其水雷ヲ変更スルコトヲ約ス

交戦者ハ第五條第？項ノ條件ニ從テ構造セラレタル水雷ヲ有スルニ至ルマテハ第二條乃至第四條ノ範囲外ニ繫維触発水雷ヲ沈置スルヲ得ス本條約實施ヨリ一年後ニハ第

一條第一項ノ條件ニ適セサル繫維ナキ触発水雷ヲ使用スルヲ禁ス

第十條 本條約ノ規定ハ實施後五年間有効トス記名國ハ前項ノ期間滿了六ヶ月前ニ水雷使用ノ問題ヲ更ニ審議スヘキノ希望ヲ表彰ス

（第二）捕獲セラレタル敵商船ノ乗員取扱

第一條 交戦者カ敵商船ヲ捕獲シタルトキハ其乗員中ノ中立國民ハ俘虜ト為サス

中立國民タル船長及士官ニシテ其戰爭中敵船内ニテ服務セサルヘキ旨書面ヲ以テ正式ニ約束セルモノ亦同シ

（第四）商船ノ軍艦ニ変更スルコトニ關スル規定案

數多ノ締盟國ハ戰時ニ商船ヲ其戰列艦隊ニ編入スルヲ欲スルニ依リ右変更ニ關スル條件ハ一般ノ協定ヲ得ヘキ限り之ヲ規定スルコトヲ希望スヘク公海ニ於テ變更スルヲ得ルヤノ問題ニ付テハ一致ヲ得サルヲ以テ同問題ハ次ノ規定ノ範圍以外タリトノ前文ヲ置ク

第一條 軍艦ニ變更スル商船ハ所屬國間ノ Autorité contrôlée immediat 及責任ノ下ニ置クニ非レハ軍艦ノ権利義務ヲ有スルヲ得ス

第二條 軍艦ニ變更スル商船ハ所屬國軍艦ノ外形的識別記章ヲ具備スルヲ要ス

第三條 指揮官ハ國家ノ勤務ニ服シ且相當官憲ニ依リ正當ニ任命セラレ職員等中ニ記入セラレタル者ナルヲ要ス

第四條 乗員ハ軍ノ規律ノ下ニ置カルヘシ

第五條 軍艦ニ變更スル商船ハ其行動上戰爭ノ法規慣例ヲ遵守スル義務アリ

第六條 交戦者ニシテ商船ヲ軍艦ニ變更シタルトキハ可成速ニ其軍艦表中ニ右変更ヲ記載スルヲ要ス

（第五）陸戰法規慣例ヲ海戰ニ應用スル件ハ第四委員會ノ調查會ニテハ会期ノ余日ナキヲ理由トシ之ヲ

第一條 敵國民タル船長士官及乗員ハ戰爭中戰爭行動ニ關係ヲ有スル何等ノ勤務ニモ服セサルヘキ旨正式ノ書面契約ヲ以テ誠実ニ約束セルモノニ限り之ヲ俘虜ト為サス

第三條 捕獲國ハ第一條第一項及第二條ノ條件ヲ以テ解放戰國ハ故意ニ右人員ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條 前諸条ハ抗敵行為ニ從事セル船舶ニ對シテハ之ヲ適用セス

（第三）戰時ニ於ケル沿岸漁船及其他ノ船舶ノ捕獲免除ニ關スル規定案

第一條 単ニ「エックストリューシーヴリー」沿岸漁業又ハ地方小航海用ニ使用セラル、船舶ハ其機關（エンジン）裝具（agres）屬具及載貨ト共ニ捕獲ヲ免除ス右免

除ハ船舶カ如何ナル方法ニ依ルヲ間ハス抗敵行為ニ加ハルトキヨリ之ヲ適用スルモノトス

締盟國ハ上記船舶ノ平和的外觀ヲ維持シナカラ軍事上ノ目的ニ之ヲ使用スル為メ其無害ナル性質ヲ利用スルコトヲ互ニ禁ス

第二條 學術教育又ハ慈善ノ任務ヲ有スル船舶モ等シク捕獲ヲ免除スルモノトス

次回ノ平和會議ニ譲ルコトヽシ一致ヲ以テ左ノ希望案ヲ第四委員會ニ提出スルニ決定セリ

各国ハ特別ノ規定制定セラル、マテ出来得ヘキ限り千八百九十九年陸戰ニ關スル條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スルコトヲ希望ス特別規定ノ制定ヲ次回平和會議ノ議題ト為スハ各國ノ希望スル所ナリ

（第六）恩恵期間ニ付テハ既報後左ノ修正ヲ加ヘタリ

第二條 不可抗力ノ為メ前條ノ期間間ニ敵港ヲ出港スルヲ得サル商船又ハ出港ヲ許サレサル商船ハ沒收セラル、コトナシ

右商船ハ單ニ戰爭後賠償ナクシテ返還スルノ義務ヲ以テ抑留セラルヘク又ハ賠償ヲ仕払ヒタル上徵發セラルヘシ

第三條 ノ抑留及徵發ヲ前條第二項ト同一ノ趣意ニ改メ又賠償ヲ仕払ヒ且人員ノ安全及船舶書類ノ保管ニ注意スルノ義務ヲ以テ之ヲ破壊スルコトヲ得トセリ

第四條 第一條及第二條ニ規定セル船内ニ在ル敵貨ハ等シク抑留セラレ戰爭後賠償ナクシテ返還セラルヘク又船舶ト共ニ若クハ格別ニ賠償ヲ仕払ヒタル上徵發セラルヘシ

第三條ニ規定セル船内ニ在ル載貨ニ付テモ亦同シ

モンテネグロ、ハ常ニ独逸ト歩調ヲ一ニシメ、墺両国ハ大体之レニ倣ヒ又日、英、西班牙、葡萄牙ノ四國ハ多クノ場合ニ態度ヲ一ニシテ之レニ反対セリ仏、伊両国ハ中間ニ立ナカラ其態度稍々我レト同シ中立港ニ於ケル交戰國軍艦ノ取扱問題ニ闕シテモ亦同一ノ結果ヲ生スヘシト思考ス

ノ取扱問題ニ闕シテモ亦同一ノ結果ヲ生スヘシト思考ス

三一六 明治甲午年九月二十六日 在海牙都筑大使(ヨリ)林外務大臣宛(電報)

第三委員總会ニ於テ触発自動敷設水雷沈置ニ關スル規定案可決條項報告ノ件

九月廿八日 後一〇、五〇 海牙發 前七、三五 本省着

都筑大使

第一四一號

議案要領 觸発自動敷設水雷沈置ニ關スル規定案ハ前電後

第三委員會總会ニ於テ種々議論ノ結果水雷沈置ノ場所ニ就テハ協定ヲ得ザル為メ削除シ結局左ノ通ノ案トナリ可決セラレタリ

第一條往電第一三二號第一ノ第一條ノ通り

交戰者ハ右水雷ヲ出来得ベキ丈一定ノ期間経過後ニハ無害トナル様製スペク且右水雷ガ監視セラレザルニ至ルトキハ軍事ノ必要上許ス限り速カニ其危險範囲ヲ水路告示ヲ以テ告示スペク該告示ハ又外交上ノ手段ニヨリ之ヲ各國政府ニ通知スベキ事ヲ約ス

第四條旧第七條ト同ジキモ唯旧第一項即チ但シ中立國ハ第二條ノ範囲外ニヘ水雷ヲ沈置スルヲ得ズトノコトヲ削レリ

第五條ハ旧第八條ト同趣意ナリ

第六條 締盟國ニシテ本條約ニ定メタル完全セル水雷ヲ有セズ從テ第一條及第三條ノ規定ヲ履行スルヲ得ザルモノハ可成速ニ定規ノ規定ニ従ヒ其水雷 material de mines プ麥更スルコトヲ約ス

第七條 本條(?)約ノ規定ハ七ヶ年間若シ第三平和會議ガ其以前終了スルトキハ其閉会迄効力アルモノトス締盟國ハ触発自動敷設水雷使用問題ニシテ七ヶ年ノ期間経過前ニ第三平和會議ニ於テ審議決定セラレザル場合ニハ該トナリ次回ノ平和會議ニ延バヌ事ニ決シ其旨第四委員會ニ報告セリ

二 海上ニ於ケル郵便信書保護ノ件獨逸提案ハ前ト同一ノ Sous Comite ノ手ニテ審議ノ結果左ノ 案ヲ議決セリ

第一條 中立者又ハ交戰者ノ郵便信書ニシテ(テ)中立船ニ搭載セラレ海上ニアルモノハ其公ケノ性質ヲ有スルト私ノモノナルトヲ問ハズ不可侵トス

右中立船ハ拿捕シタルトキハ該郵便信書ハ捕獲者ニ於テ出来得ベキ丈速カニ之ヲ送達スベシ但シ封鎖違反ノ場合ニ於テ該郵便信書ニシテ封鎖港ニ仕向ケラレ又ハ封鎖港ヨリ来るモノナルトキハ此限リニアラズ

前項ノ規定ハ敵船ニ搭載セラレ海上ニアル郵便信書ニ對シテモ等シク之レヲ適用ス

第一條 郵便信書ノ不可侵ハ中立郵便船ニ対シ一般商船ニ關スル海戰法規慣例ノ適用ヲ免除スルモノニアラズ

但シ中立郵便船ノ臨檢ハ必要ノ場合ニ限り最大ノ注意ヲ以テ可成迅速ニ之ヲ行フヲ要ス

都筑大使

第一四三號

議案要領第四委員會ノ討議事項ニ就テハ前電ノ外調査員又ヘ Sous Comite ニテ左ノ事項ヲ議定シクリ

一 戰時禁制品問題ハ独、米、英、仏、ブラジル、智利、露西亞ノ委員ヨリ成立セル Sous Comite ニ於テ審議シタル處絕對的禁制品ノ品目制定ニ付テハ稍々纏リタルモ條件的禁制品ノ件ニ付議論終ニ纏ラザル為メ全部不成立

第六章 會議ノ進行、海軍關係 三一七

第六章 會議ノ進行、海軍關係 三二八 三二九

ノ平和會議ニ延期スルノ議ヲ提出シ終ニ調査委員ニテハ
何等ノ決定ヲ為スコトナクシテ其旨委員会報告セリ

タリ議題中禁制品ノ件以下四件ハ第四委員会ニテ協定ヲ得
ザリシトノ報告ヲ承認セルニ止マル

三二八 明治四年九月二十七日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

第七回総會議ニ於テ海軍關係諸案通過ノ旨

報告ノ件

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

本日第七回総會議ヲ開キ商船ヲ軍艦ニ変更スル規定案恩惠
期間案海上郵便船諸保護案捕獲敵船乗員取扱及案漁船等ノ
捕獲免除案海戦法規慣例ニ關スル希望案戰時禁制品ノ件
海上私有財産不可侵ノ件封鎖ノ件中立捕獲船破壊ノ件ヲ
議事ニ附シ通過セリ商船ヲ軍艦ニ変更スル案ニ付テハ一
致シ其他一二国留保シ恩恵期間案ニ付テハ米国ハ本国政府
ノ訓令ヲ待ツトノ理由ニテ全部留保シ独、清、モンテネグ
ロ、露西亞ノ四個ハ第三條及第四條第二項ニ対シテ留保シ

ヲ明確ニ制定スルコトノ望マシキ事ソノ規定ヲ交戦者双方
ニ對シ公平ニ執行スルハ中立國ノ義務ナルコト及ヒ経験上
中立ヲ維持スル為必要ナル場合ノ外一旦發布セル中立規定
ヲ戰爭中変更スヘカラサル事ヲ思ヒ訂盟國ハ左ノ條項ヲ協
定ス但現行條約ノ規定ニ変更ヲ及ホスモノニアラス

第一條、交戦者ハ中立國ノ主權ヲ尊重シ中立領土又ハ領海
内ニテハ中立違反トナルヘキ一切ノ行為ヲ避クルノ義務
ヲ有ス

第二條、中立國領海内ニ於テ交戦國軍艦ノ行フタル一切ノ
抗敵行為(捕獲及臨檢權行使ヲ含ム)ハ中立違反タルヲ
以テ嚴ニ之レヲ禁ス

第三條、船舶カ中立國領海内ニ於テ拿捕セラレタル場合ニ
於テハ該中立國ハ捕獲船(Prise)カ尙其管轄内ニアル
時ハ其乗組士官乗員ト共ニ之ヲ解放スルタメ且ツ捕獲者
ニ於テ乗リ組マシメタル乗員ヲ抑留スルタメ其權内ニ屬
スル必要ナル手段ヲ取ルヘシ之ノ捕獲船カ中立國ノ管轄
外ニアル時ハ中立國ハ其ノ乗組士官乗員ト共ニ之ヲ解放
スヘキ事ヲ交戦國政府ニ通知スルコトヲ得

第四條、交戦者ハ一切ノ捕獲審檢所ヲ中立領土又中立領海
内ニアル船舶内ニ設クルコトヲ得ス

三八二

三二九 明治四年九月二十八日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

第三委員会第二分科会ニ於テ議定セル海戦ノ場合
ニ於ケル中立國ノ権利義務ニ關スル規程案要領

中立國及交戦國間ノ關係ニ關スル意見ノ相違ヲ減シ右相違

ノ為ニ生スル事アルヘキ困難ヲ豫防センカ為今日實際上起

ルコトアルヘキ一切ノ場合ニ對スル規定ヲ協定スルコト能

ハサルニセヨ戰争起リタル場合ニ對スル一般規則ヲ出来得
ヘキ丈制定スルハ極メテ必要ナルコト本條約ニ規定セサル

事項ニ就テハ國際法ノ原則ニヨルヘキ事各国ハ中立規程

第一四六号

九月二十九日 後一〇、五〇 海牙發

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

都筑大使

第一四六号

九月二十八日 正午

本省着

都筑大使

第一四五号

九月二十七日 後五、五五 海牙發

本省着

第九條、中立國ハ其港碇泊所又ハ領海内ニ交戰國軍艦又ハ其捕獲船ノ入港スル事ニ關シ制定シタル條件制限又ハ禁止ヲ交戰者双方ニ対シ等シク適用スルヲ要ス然レトモ中立國ハ其制定シタル命令又ハ規定ヲ遵守セサルカ又ハ中立ヲ犯シタル一切ノ交戰國艦船ニ対シ其港碇泊所又ハ領海内ニ入泊スルコトヲ禁止スルコトヲ得

第十條、一國ノ中立ハ交戰國ノ軍艦又ハ捕獲船カ該國ノ領海内ヲ単ニ通過 (simple passage) シタルカ為侵害セラルモノニアラス

第十一條、中立國ハ交戰國軍艦カ其公共水先案内者ヲ使用スルコトヲ默過スルヲ得 (Petit laisser se servir)

第十二條、中立國ノ法制上他ニ特別ノ規定ナキ時ハ交戰國艦船ハ本條約ニ規定セル場合ノ外該中立國ノ港碇泊所又ハ領海内ニ於テ二十四時間以上滯在スルコトヲ禁ス

第十三條、戰爭開始ノ通知ヲ得タル國ニシテ其港碇泊所又ハ領海内ニ交戰國軍艦ノ滯在スル事ヲ知ル時ハ該國ハ二十四時間又ハ其國ノ法令ニ規定スル期間内ニ出港スヘキ

事ヲ上記軍艦ニ通知スルヲ要ス

第十四條、交戰國軍艦ハ損害ノ原因又ハ海上ノ状態ノ理由ニ由ルノ外法定期間以上ニ涉リテ中立港ニ滯在スルコト

九月廿八日 後九、三五 海牙發

第一四六号統キ

第十五條 若シ中立國ニシテ其港若クハ碇泊所ニ同時ニ碇泊シアル一方交戰國軍艦ノ最大数ヲ予メ定メ居ラザル時ハ其数ハ三隻トス

第十六條 交戰國數艘ノ軍艦同時ニ中立港又ハ碇泊所ニ碇泊スル時ハ交戰國一方ノ軍艦ノ出發ト他方ノ軍艦ノ出發トノ間ニ少ナクモ二十四時間ヲ距ツルヲ要ス出發ノ順序ヘ到着ノ順序ニ依リ之ヲ定ム但シ第一ニ到着シタル軍艦ニシテ其碇泊ニ關スル法定期間ノ延長ヲ許サル、場合ハ此限ニアラズ交戰國ノ軍艦ハ敵國旗ヲ掲揚スル商船ノ出發後二十四時間以内ニ中立港又ハ碇泊所ヲ出港スルヲ得ズ

第十七條 交戰國軍艦ハ中立港又ハ碇泊所ニ於テ其航海ノ

安全ノ為メ缺クベカラザル程度ヲ除クノ外其損害ヲ修理スルコトヲ得ズ且ツ如何ナル方法ニ依ルヲ問ハズ其戦闘力ヲ増加スルヲ得ズ中立國官憲ハ其行フベキ修理ノ性質ヲ證明 Constate スベク右修理ハ出来得ベキ丈速カニ之レラ完成セシムベシ

第十八條 交戰國ノ軍艦ハ其軍事上ノ需要品 Approvisionnements Militaires 又ハ兵器ヲ renouveler 又ハ

増加スル為メ並ニ其乗員ヲ補充スル為メ中立國ノ港碇泊所及領水ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十九條 交戰國ノ軍艦ハ其平時ニ於ケル通常 normal ノ需要品ヲ補充スル為メノ外中立港及碇泊所ニ於テ供給ヲ受クルコトヲ得ズ右軍艦ハ又其最近本国港ニ達スル為メノ外燃料ヲ積入ル、コトヲ得ズ然レトモ右軍艦ハ其搭載

量ニ達スル丈燃料ヲ積込ム事ヲ許スノ制ヲ設ケタル中立

国内ニアル場合ニ於テハ其搭載燃料ヲ補充スル為メ必要ナル燃料ヲ積ミ入ル、コトヲ得供給ヲ避クルガ為メ其滞

アラズ然レトモ中立國港ニ於テ軍艦ノ到着後二十四時間ヲ経テ始メテ石炭ノ搭載ヲ許ス場合ニハ右法定期間ハ

二十四時間延長スルモノトス

ヲ得ス上記軍艦ハ遲延ノ原因止ミタルトキハ直チニ出港スヘシ中立港及中立水内ニ於ケル滯在ノ制限ニ關スル規程ハ専ラ (exclusivement) 學術宗教慈善ノ任務ニ供セラル軍艦ニ対シテ之ヲ適用セス (統ク)

九月三十日 後〇、一五 本省着

第一四六号統キ

第二十條 交戰國軍艦ニシテ中立國ノ一港ニ於テ燃料ヲ積ミ込ミタルモノハ同一國ノ港ニ於テハ少クモ三ヶ月ヲ経過スルニアラザレバ再び供給ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十一條 捕獲船ハ航海ニ耐ヘザル時海上荒キ時又ハ燃料若クハ糧食缺乏ノ原因ニ依ルノ外中立港内ニ引入ル、事ヲ得ズ捕獲船ハ其入港正当ナラシタル原因止ミタルトキハ直ニ出港スペシ若シ出港セザルトキハ中立國ハ直ニ出港スベキ命令ヲ之ニ通知スルヲ要ス捕獲船ニシテ此ノ命令ニ從ハザル時ハ中立國ハ其乗組士官及乗員ト共ニ之ヲ解放シ且ツ捕獲者ノ派遣セル乗員ヲ抑留スル為メ権内ニアル手段ヲ尽スラ要ス

第二十二條 中立國ハ又第二一條ニ規定セル條件以外ノ事由ノ為メ引入レラレタル捕獲船ヲ解放スルヲ要ス

第二十三條 中立國ハ捕獲船ニシテ審檢所ノ検定アルマデ留置スル為メ中立港及ビ碇泊所ニ引入レラレタル時ハ其獲送ヲ受クルト否トヲ問ハズ該捕獲船ニ対シテ中立港及碇泊所ニ入泊スルコトヲ許スヲ得中立國ハ捕獲船ヲ自國ノ他ノ港ニ置ク事ヲ得捕獲船ニシテ軍艦ノ為メニ護送セラル場合ニハ捕獲者ノ派遣セル士官下士卒ハ該護送艦

第六章 會議ノ進行、海軍關係 三三〇

三八六

ニ転乗スルコトヲ許サルベシ捕獲船ニシテ単独ニ入港ス
ル場合ニハ捕獲者ガ派遣セル人員ハ解放セラルベシ

第二十四條 交戦國軍艦ニシテ中立官憲ノ通告アルニ拘ハ
ラズ規定ノ期間内ニ出港セザルトキハ中立国ハ該軍艦ヲ
シテ戰爭繼續中海上ニ出ヅルコト能ハザラシムル為メ其
必要ト認ムル手段ヲ執ルノ權利ヲ有ス該軍艦ノ艦長ハ
右手段ノ実行ヲ容易ナラシムルヲ要ス交戦國軍艦ニシテ
中立国ノ為メ抑留セラレタルトキハ其官員及乗員ハ等シ
ク抑留セラルベシ抑留セラレタル士官及乗員ハ抑留軍艦
内ニ留置スルコトヲ得ベク又ハ他ノ艦船内若クハ陸上ニ

宿泊セシムルコトヲ得ベシ且右人員ハ必要ト認ムル制限
的手段ニ服セシメラルルコトヲ得ベシ然レトモ抑留軍艦
内ニハ常ニ其保存ニ必要ナル人員ヲ留置スルヲ要ス抑留
士官ハ許可ナクシテ中立領土ヲ離レザル旨宣誓ノ上之ヲ
解放スルコトヲ得

第二十五條 中立国政府ハ其港碇泊所領水内ニ於テ前記ノ
規定ノ違反ヲ防止スル為メ其權内ニ於テ実行セラレ得ル
監督ヲ行フノ義務ヲ有ス

第二十六條 中立国ニ於テ本條約ノ規定セル權利ヲ施行ス

ル事ハ條約ノ條項ヲ承認セル交戦國ノ一方又ハ他方ニ对

シ友誼ニ悖ル行為ト認ムベカラザルモノトス
ノ取扱ヒニ關シテ其制定セル一切ノ法令其他ノ規定ヲ必
要ナル時期ニ於テ互ニ通知スベシ右通知ヲ為スニハ先ツ

和蘭國政府ニ通告シ和蘭國政府ハ直ニ之ヲ他ノ締盟國ニ
伝達スルモノトス

三三〇 明治四年九月二九日 在海牙都筑大使(ヨリ)
林外務大臣宛(電報)

第三委員会調査会ニ於ケル前件第三讒会狀況報
告ノ件

九月二十九日 前一八、二〇 海牙發

林外務大臣

都筑大使

第一四七号

九月二十八日附往電第一四六号ニ閑シ

中立國權利義務ニ閑スル規定案ニ就テ本日第三委員会調査
委員ニ於テ第三讒会ヲ開ケリ

第五條ノ二ハ英國提案ニ拠レルモノナリシカ議論沸騰セン
コトヲ虞レ英委員ハ自己ノ議論ヲ議事録ニ掲タルヲ條件ト
シテ之ヲ條約ノ成文中ヨリ削除スルコトヲ承諾セリ其他二
三露独ヨリ修正意見提出アリシモ來ル水曜日第三委員会總
会ニテ裁決スルコトトナリ處々文句ヲ修正シタル末ニテ第
二讒会ヲ終リタリ

獨露ハ一層規定ヲ寬ナラシムコトヲ努メツ、アリ又英國

ハ全部ニ對シ本國政府ノ意見ニ任カシタシトノ意味有氣ナ
ル留保フナセリ

本案ノ前途如何ナルヘキヤ未夕明言シガタシ

在海牙都筑大使(ヨリ)

三三一 明治四年十月三日 林外務大臣宛(電報)

海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ閑スル
規定案ニ對スル列國ノ態度報告ノ件

十月二日 前一一、一〇 海牙發

都筑大使

第一五二号

林外務大臣

三三二 明治四年十月五日 在海牙都筑大使(ヨリ)
林外務大臣宛(電報)

第三委員会總会ニ於ケル海戰ノ場合ニ於ケル中

ノ件

十月五日 前一〇、〇〇 海牙發

都筑大使

第一五四号

林外務大臣

十月四日往電第一四七号ノ件本日午後開會ノ第三委員會總
会ニテ討議セリ本官ハ他ノ外交カ同意スルナラハ日本モ

互讓ノ精神ニテ本案ニ同意スヘシ尤モ尙此上ニ日本ノ意見
往電第一四七号ニ閑シ各國委員ノ意向ハ概シテ若シ英國ニ

ニ反スル重要ノ修正アラハ右同意ヲ撤回スルモノ知レストノ態度ニテ先ツ宣言シ英國ハ先日來ノ態度ニテ全体ニ付意見ヲ留保シ米ハ表面訓令ナキノ理由（其実ハ英カ留保スル以上ハ一八七一年華盛頓條約ニ反スル本條約案ニ同意スルニ躊躇スルモノ、如シ）ニテ金部ニ對シテ同様留保セリ然ルニ先日來露独ニ於テ熱心ニ運動シ十二條ヲ寛ニゼント試ミツツアリシカ遂ニ効果ヲ奏セス依テ其運動方法ヲ變ヘ十八條ノ前段即チ供給ヲ受クルカ為メ其滯在ニ閔スル法定定期ヲ延長スル権利ヲ生スルモノニアストノ文句ヲ削除セントノ目的ニテ内々英ニ協議ヲ求メ來リ水雷ノ制限ヲ電報一四二案ニ比シ今一層嚴重ニスルコトヲ承諾スル代リニ英ニ於テ右三項前段ノ削除ニ同意シ吳レヨトノ申込アリ英モ余程躊躇シタル様子ナリシモ之ニハ本官力熱心ニ反対シ遂ニ二十四時間規則ニ閔スル英ノ態度丈ハ喰止ムルヲ得テ英ハ右交渉ヲ拒絕スルニ至リタリ茲ニ於テ彼ハ百方運動シテ遂ニボリビア迄説キ付ケ本日ノ會議ニ於テ該前段削除ノ提議ヲ提出シ遂ニ露独壞伊仏等二七國ノ賛成日英西葡清五國ノ反対米等九国ノ「アブステン」ニテ其削除ノ議ヲ成立セシメタリ從テ本官ハ右修正ハ十二條ノ除外例ノ範囲ヲ

拡メント試ムルモノニシテ十二條ノ意義ニ於テ大差ヲ生シ前條約ノ重要ノ点ヲ変更シタルモノト信スルカ故ニ前ノ同意ヲ取消シ條約全文ニ對シテ留保ヲ為シタリ尙十二條ニ付戰爭附近ノ場所ト遠方ノ場所トヲ區別セントノ独逸ノ修正アリタレトモ大少數ニテ否決セシメタリ從テ獨ハ十二條ニ及十三條ヲ留保シ且十一條二十條ニ閔シテ留保ヲ成シタリ又二十三條ニ對シテハ瑞典ヨリ該條ノ削除ヲ提議セルモ少數ニテ成立セス總會議迄ニハ尙多少裏面ノ調訂運動アルヘク從テ未タ成行如何ヲ予言シカタケレトモ目下ノ状態ニテハ日英米清ハ全部ニ對シ留保ヲナシ西葡モ亦タ之ニ隨從スルナラムカト信ス

三三三 明治甲年十月十日

在海牙都筑大臣宛（電報）

第八回總會議ニ於ケル水雷沈置案及海戰ノ場合

ニ於ケル中立國権利義務ニ閔スル規定案ノ討議

狀況報告ノ件

十月十一日 前九、三〇 海牙發

林外務大臣

都筑大使

國ノ権利義務規定案ニ付テハ本官ハ英米西葡ト共ニ本案全部ニ對シ投票ヲ留保シ本国政府後日ノ詮議ニ一任スル旨宣言シタリ希臘瑞西モ亦「アブステイン」シタリ然カシテ各條項ニ付テハ独逸ヘ第十二條第十三條及二十條ヲ支那暹羅波斯ハ十二條十九條及二十三條ヲ留保シ土耳其モ亦一二留保スル所アリテ本會議ヲ終レリ又本日午後第一委員会總会ヲ開キ Drago Doctrine ヲ議シ往電一一五ノ案ハ通過尤モ南米諸國ノ多數ハ兵力使用ノ制限ヲ不充分ナリトシ留保ヲ為シタリ

暗ニ独逸等ノ態度ヲ攻撃シタルニ独逸委員ハ之ニ對シテ文明國ノ海軍士官ハ場所ニ閔スル規定ナキトモ之ヲ濫用スルモノ無カルベシトテ一矢報ヒタリ海戰ノ場合ニ於ケル中立